

第374整備中隊の空兵 航空団の儀礼剣を製作(1) 374th MXS Airmen yields new ceremonial sword for Yokota

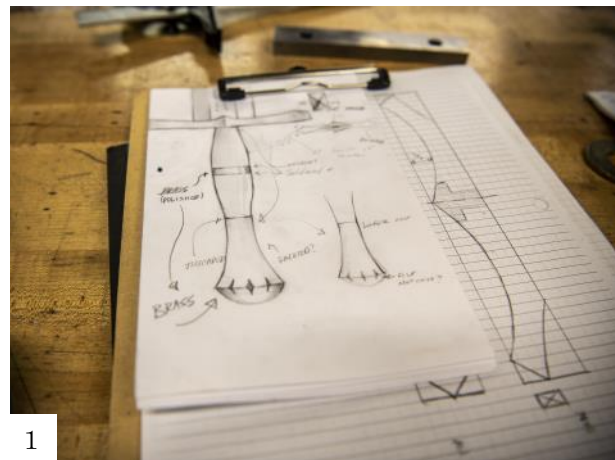
September 13, 2022

By Yasuo Osakabe and Senior Airman Hannah Bean
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真1)第374整備中隊金属加工職人マイケル・スミス軍曹が描いた、新たに製作する第374空輸航空団の儀礼用の剣(以下:儀礼剣)の設計図。スミス軍曹は、この製作を自発的に申し出た。新作の儀礼剣は、今年の「エアフォース・ボール(空軍舞踏会)」でお披露目される。

(現航空団の前身)第374戦術航空団の司令官ジェームズ・I・バギンスキー大佐は、1974年にフィリピンのクラーク基地で、自由を守るために犠牲となった仲間の兵士を記憶に留めるために先代の剣を作った。

—撮影:8月31日 横田基地にて
(Photo by Yasuo Osakabe)



(写真2)手動フライス盤を使って切削加工する第374整備中隊金属加工職人マイケル・スミス軍曹。

(Photo by Yasuo Osakabe)



(写真3)グラインダーで剣の刃先を削る第374整備中隊金属加工職人マイケル・スミス二等軍曹。

(Photo by Yasuo Osakabe)



第374整備中隊の空兵 航空団の儀礼剣を製作(2) 374th MXS Airmen yields new ceremonial sword for Yokota

September 13, 2022

By Yasuo Osakabe and Senior Airman Hannah Bean
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真4)横田基地で9月15日、第374空輸航空団の新作の儀礼剣を手にする同航空団司令官アンドリュー・ラダン大佐(右)と製作者の第374整備中隊金属加工職人マイケル・スミス軍曹。

(U.S. Air Force photo by Senior Airman Hannah Bean)



4

(写真5)今年の「エアフォース・ボール(空軍舞踏会)」でのお披露目に前に第374空輸航空団司令官に贈呈された、第374整備中隊金属加工職人の手製の剣に光る彫刻。スミス軍曹は3週間もの自らの時間を費やし、同航空団の儀礼剣を製作した。

(U.S. Air Force photo by Senior Airman Hannah Bean)



5

(写真6)先代の儀礼剣(左)と新たな第374空輸航空団の儀礼剣(右)を手にして立つ、空兵とリーダーシップ。

(U.S. Air Force photo by Senior Airman Hannah Bean)



6